

■ 2022年度入試結果総評

【北九州地区】

第2学区最難関の小倉高校は、昨年倍率が大きく上昇しましたが、今年度は1.24倍（昨年度1.41倍）と例年並みの水準に戻りました。第3学区最難関の東筑高校は、倍率が今年度1.35倍（昨年度1.26倍）と上昇し、激戦となりました。他の高校は、戸畑高校1.30倍（昨年度1.19倍）、八幡高校（普通・理数）1.35倍（昨年度1.21倍）、小倉西高校1.14倍（昨年度1.29倍）、中間高校1.24倍（昨年度1.35倍）、八幡南高校1.28倍（昨年度1.46倍）でした。第1学区の京都高校は1.07倍（昨年度1.20倍）でした。

【福岡地区】

〔第4学区〕

最難関の福岡高校は、倍率が1.71倍（昨年度1.58倍）と、昨年から大きく上昇し、大激戦となりました。香住丘高校普通科は1.18倍（昨年度1.29倍）、宗像高校は1.13倍（昨年度1.11倍）、香椎高校普通科は1.51倍（昨年度1.57倍）、新宮高校普通科は1.33倍（昨年度1.49倍）でした。

〔第5学区〕

最難関の筑紫丘高校は、理数科の倍率が今年度2.40倍（昨年度2.03倍）、普通科は今年度1.53倍（昨年度1.32倍）といずれも大きく上昇しました。普通科においては、理数科からの転科合格があるため、実際はこの倍率以上の激戦となっています。春日高校は1.28倍（昨年度1.30倍）、筑紫高校1.06倍（昨年度1.13倍）、福岡中央高校1.43倍（昨年度1.53倍）、筑紫中央高校1.34倍（昨年度1.63倍）でした。

〔第6学区〕

福岡県で最難関の修猷館高校は、今年度の倍率が1.64倍（昨年度1.64倍）と、相変わらずの激戦でした。城南高校の倍率は普通科1.33倍（昨年度1.50倍）、理数コース1.15倍（昨年度1.78倍）と昨年より下降しました。筑前高校は1.13倍（昨年度1.15倍）、糸島高校は0.99倍（昨年度1.07倍）でした。

【筑後地区】

第8学区の明善高校理数科の倍率は、今年度2.38倍（昨年度2.08倍）、普通科総合文科コースは、1.30倍（昨年度1.28倍）、普通科は1.37倍（昨年度1.22倍）と、今年も高倍率で激戦でした。久留米高校普通科の倍率は1.21倍（昨年度1.47倍）、第10学区の伝習館高校の倍率は1.11倍（昨年度1.15倍）でした。

【筑豊地区】

第12学区の嘉穂高校理数科の倍率は0.85倍（昨年度1.33倍）、普通科は0.91倍（昨年度0.88倍）でした。嘉穂東高校普通科は0.98倍（昨年度0.91倍）、鞍手高校理数科は0.88倍（昨年度0.98倍）でした。

■ 入試問題の難易度推移

毎年、福岡県教育委員会が公立高校の全受験者の得点を集計し、全受験者の平均点を発表しています。その結果をまとめたものが、下の表です。令和4年度の全体の平均点は172点でした。

ただし、各科目とも記述式の出題が多くなり、採点基準が各高校にゆだねられているため、全受験者の平均点を過去のデータと比較する意味が薄れてきているのではないかと考えられます。

福岡県公立高校入試の難易度推移（各 60 点、300 点満点）

	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	H31	R2	R3	R4
国語	36	33	31	32	34	36	39	39	34	39	36	39	36
数学	36	33	30	31	27	34	29	33	31	32	33	29	32
社会	33	31	30	34	33	35	31	31	31	38	29	35	33
理科	34	35	38	30	25	33	37	32	33	32	32	36	37
英語	36	31	28	30	31	31	30	29	33	34	33	35	34
合計	175	163	158	156	150	168	165	164	162	175	163	174	172

（得点は四捨五入していますので、合計が一致しない場合があります。）